

報道関係各位

株式会社留学ジャーナル

留学ジャーナル『2017年夏休み留学動向』を発表

大学生の夏休み留学予定者が過去11年で最多数*を記録

～「海外で働きたいと思う」が昨年の25%から11%に減少。海外勤務を想定する人は少数派～

※毎年5月末時点での夏季短期留学プログラム(8週間以内)申込者数の比較による

雑誌「留学ジャーナル」の発行元であり、日本最大級の留学エージェントでもある株式会社留学ジャーナル(本社:東京都新宿区信濃町34 JR信濃町ビル、代表取締役社長:安藝 清、以下「留学ジャーナル」)は大学生の今夏の短期留学申込み動向および留学予定者を対象に留学意識調査を実施し、「2017年夏休み留学動向」としてまとめましたので、以下の通りご報告いたします。

＝調査結果トピックス＝

【「2017年夏休み留学動向」申込者データより抜粋】

■大学生の夏休み留学予定者が過去11年で最多数を記録

大学生の夏の留学申込者は昨年比7%増、過去11年で最多数を記録しました。官民協働で進められている留学促進プログラムや、大学の留学プログラム募集など、留学できる環境が身近に用意されている中、留学期間やプログラムが自由に選べる短期留学へのニーズも高まり、当社においても申込者数が増えているものと見られます。

■大学生の学年別申込者は1年生が前年比8%減。一方大学2～4年生はそれぞれ増加。

学年別の申込者を前年と比較すると、大学1年生は前年より8%減少、大学2～4年生はそれぞれ増加しました。大学生にとって留学が身近になっている中、授業が本格的に忙しくなる前に留学したいと考える大学2年生や、就職活動前に留学をして視野を広げたいと考える大学3年生の申込者増加が増加要因のひとつと考えられます。また、大学4年生では就職活動を終え、社会に出る前に海外経験を積みたいと考えるケースも増えています。

■大学生の人気留学先はバンクーバー、トロントが5年にわたり1位、2位を独占

大学生の夏休み留学の人気都市ランキングでは、過去5年にわたりバンクーバー、トロントがそれぞれ1位と2位を独占する結果に。教育水準が高いカナダの中でも、この2都市は都会でありながら治安がよく、物価も比較的安価で、滞在費を安く抑えられる点が人気の理由であると考えられます。

【「夏の留学を検討している大学生への意識調査」アンケート結果より抜粋】

■海外勤務への意欲に変化。「海外で働きたいと思う」が昨年の25%から11%に減少。

「将来海外で働きたいと思うか?」との質問に対し、「そう思う」とした人は昨年の25%から11%に減少し、海外勤務への意識に変化がみられました。また、「将来社会に出た時、自身が直面しそうな職場環境はどれか」との問いに「昇進などの条件で語学能力を問われる」を選択した人が59%となり、「海外企業で働く(勤務地は海外)」が14%で、少数派の意見となりました。

■女性の8割が「治安」を重視して留学先を選定。一方、男性は「街並みや雰囲気」を重視する意見が最多の6割。

留学先を選ぶ際、女性では「治安がよいか」を重視する割合が80%と最も高い結果となりました。一方で男性は「街並みや雰囲気」(60%)が「治安がよいか」(57%)を上回る結果となりました。男女間で留学先を選ぶ基準に意識の差があることが分かりました。

■長期留学を望まない理由に「まとまった時間が取れない」(67%)「短期留学で十分」(24%)が上位ランキン

今回の留学後の長期留学への希望を尋ね、「望まない」と答えた学生に理由を聞くと「まとまった時間が取れない」と答えた割合が67%と最も高く、次いで「短期留学で十分」(24%)と続きました。学校の授業に加え、学年が上がるにつれインターンシップや就職活動など、取り組むべき活動が増える忙しい大学生の事情が伺える結果となりました。

◆出版・印刷物等へデータを転載する際には、必ず「留学ジャーナル」とクレジットを入れ、下記までご一報くださいますようお願いいたします。

◆ここに掲載いたしました内容は抜粋版です。より詳しくまとめた完全版をご希望の方は、下記までお問い合わせください。

※本資料は文部科学記者会で配布しています。

～本件に関する報道関係者様のお問い合わせ～
株式会社 留学ジャーナル 広報担当:石澤、久保

TEL: 050-3033-4122 FAX: 03-5312-4469

E-mail: pr@ryugaku.co.jp URL: http://www.ryugaku.co.jp

Facebook 公式ページ「留学ジャーナル」: https://www.facebook.com/RyugakuJournal

■調査結果サマリー

①「2017年夏休み留学動向」編

【データ概要】

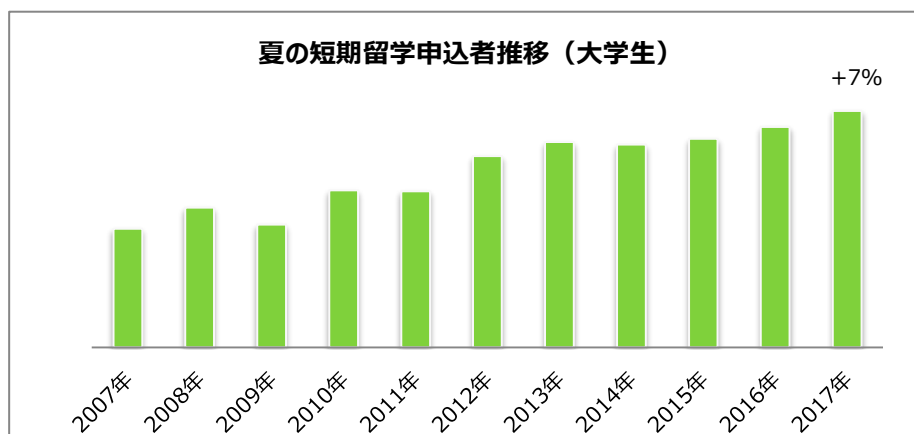
調査対象：2017年5月末時点における、2017年7月～9月に8週間以内の短期留学プログラム*での出発予定の大学生
※8週間以内の弊社留学プログラム

調査データ：2017年5月31日までに留学ジャーナルの短期留学プログラムに申し込まれた大学生のデータ

1. 夏の短期留学 申込み状況<大学生>

■大学生の夏休み留学予定者が過去11年で最多数を記録

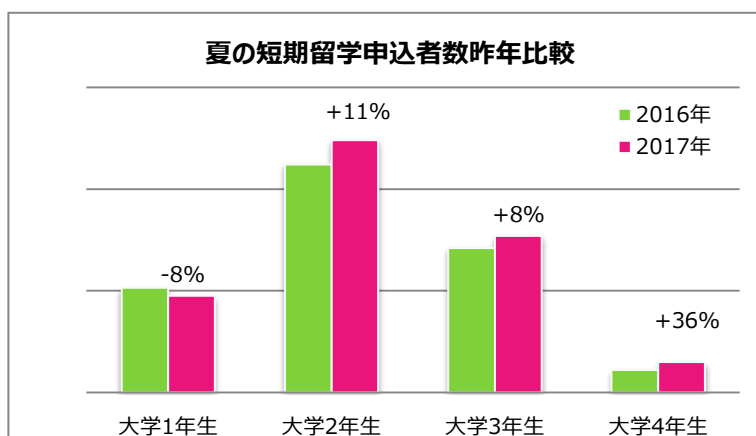
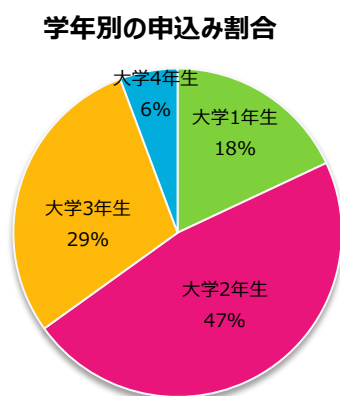
大学生の夏休み留学予定者は、前年比7%増となり、過去11年で最多数を記録しました。官民協働で進められている留学促進プログラムや、大学の留学プログラム募集など、留学できる環境が身近に用意されている中、留学期間やプログラムが自由に選べる短期留学へのニーズも高まり、当社においても申込者数が増えているものと見られます。



2. 夏の短期留学 申込み状況<学年別>

■大学生の学年別申込者は1年生が前年比8%減。一方大学2～4年生はそれぞれ増加。

大学生の申込者数を学年別で見ると、大学2年生が占める割合が47%と最も多くなっていることが分かりました。学年別で申込者数を前年と比較すると、大学1年生は前年より8%減少、大学2年生、大学3年生、大学4年生はそれぞれ増加しています。大学生にとって、留学が身近になっている中、授業が本格的に忙しくなる前に留学したいと考える大学2年生が増えており、また秋から控える就職活動の前に、留学をして自身の視野を広げたいと考える大学3年生の申込者増加も一因になっていると考えられます。また、大学4年生では、就職活動を終え、社会にでる前に一度海外経験を積もうとするケースも増えてきています。



3. 留学先都市別ランキング<大学生>

■大学生の人気留学先はバンクーバー、トロントが5年連続1位、2位を独占

下の表は、2017年から過去5年間遡り、7～9月に出発予定の短期留学プログラム申込者（2017年5月末時点）の留学先都市を、申込人数によるランキング形式にしたものです。バンクーバー、トロントは過去5年間、不動の人気留学先として、トップ2の地位を占めています。これは、教育水準が高いカナダの中でも、この2都市が都会でありながら治安が良く、物価も比較的安く抑えられる点が定評となり、安定の留学先として選ばれるようになったことが理由として挙げられます。また、前年の8位から5位に上昇したロンドン、本場でスポーツ観戦ができることや、イギリス独自の文化に触れられることで人気がある一方、6月上旬に起こったテロ事件も影響し、今後は留学先の選択肢から外される可能性もあります。

留学先都市別ランキング<大学生>

	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年
1位	バンクーバー(CA)	バンクーバー (CA)	バンクーバー (CA)	バンクーバー (CA)	バンクーバー (CA)
2位	トロント(CA)	トロント (CA)	トロント (CA)	トロント (CA)	トロント (CA)
3位	ブリスベン(AU)	ブリスベン (AU)	サンディエゴ (US)	ロサンゼルス (US)	ロンドン (GB)
4位	ロサンゼルス(US)	ロサンゼルス (US)	ロサンゼルス (US)	ロンドン (GB)	ロサンゼルス (US)
5位	ロンドン(GB)	ビクトリア (CA)	ロンドン (GB)	オークランド (NZ)	ニューヨーク (US)
5位	シドニー(AU)	サンディエゴ (US) (6位)	ニューヨーク (US) (6位)	ニューヨーク (US) (6位)	サンディエゴ (US) (6位)
5位	ビクトリア(CA)	オークランド (NZ) (7位)	ビクトリア (CA) (7位)	シドニー (AU) (6位)	サンフランシスコ (US)(7位)
8位	ダブリン(IR)	ロンドン (GB)	ダブリン (IR)	ボストン (US)	ブリスベン (AU) (7位)
9位	ニューヨーク(US)	シドニー (AU)	オークランド (NZ) (8位)	ビクトリア (CA)	クライスチャーチ (NZ)
10位	ゴールドコースト(AU)	ダブリン (IR)	ブリスベン (AU)	サンディエゴ (US)	ダブリン(IR)

②「夏の留学を検討している大学生への意識調査」編

【データ概要】

調査対象：留学ジャーナルカウンセリングセンター（東京・大阪・名古屋・広島・福岡）に8週間以内の留学相談に訪れた大学生に任意で実施したアンケート調査の結果

調査人数：107人（男性35人、女性72人）

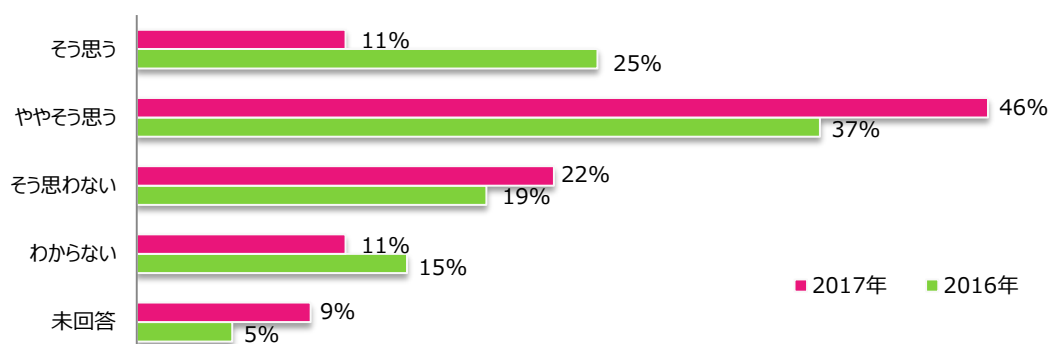
調査期間：2017年4月1日～5月31日

1. 留学後のキャリアについて

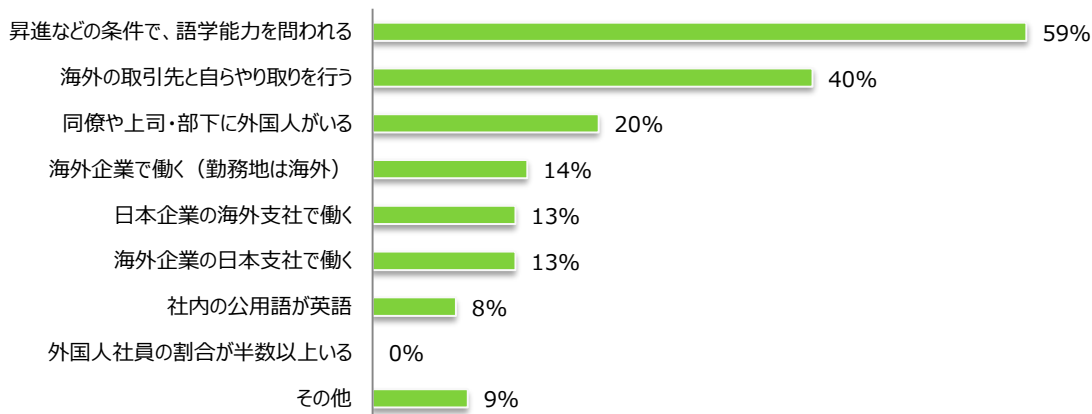
■海外勤務への意欲に変化。「海外で働きたいと思う」が昨年の25%から11%に減少。

「将来海外で働きたいと思うか？」との質問に対し、「そう思う」「ややそう思う」とした人は62%から57%にやや減少、このうち、「そう思う」とした人は昨年の25%から11%に減少し、海外勤務への意識に変化がみられました。また、「将来社会に出た時、直面しそうな職場環境はどれですか？」という問いに対しては、59%が「昇進などの条件で、語学能力を問われる」、40%が「海外の取引先と自らやり取りを行う」と回答しました。「海外企業で働く（勤務地は海外）」が14%で、少数派の意見となりました。

将来海外で働きたいと思いますか？ <前年との比較>



将来社会に出た時、ご自身が直面しそうな職場環境はどれですか

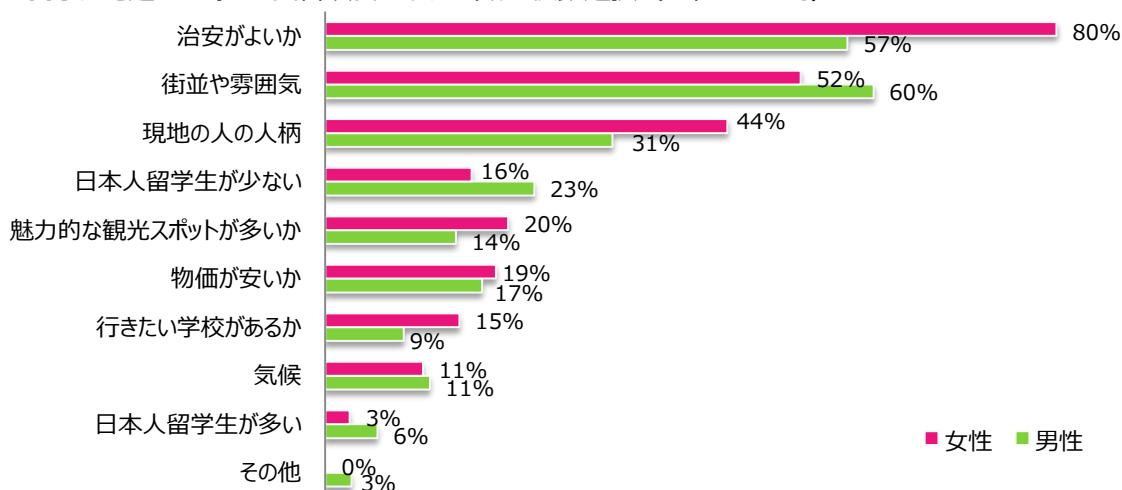


2. 留学先を選ぶ基準

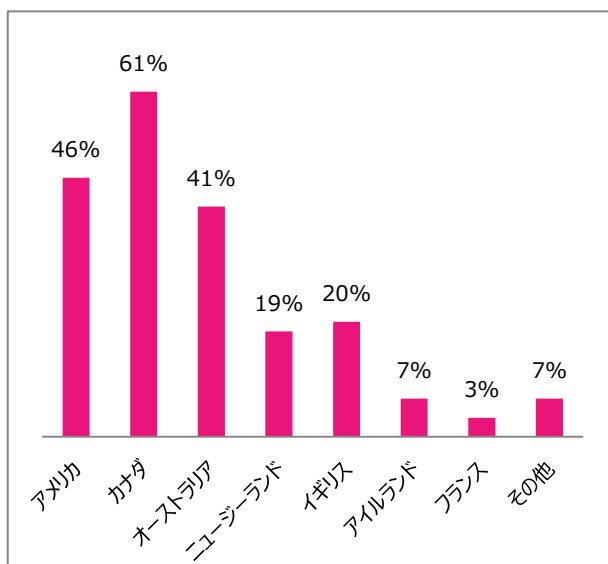
■女性の8割が「治安」を重視して留学先を選定。一方、男性は「街並みや雰囲気」を重視する意見が最多の6割。

留学先を選ぶ際、女性では「治安がよいか」を重視する割合が、80%と最も高く、男性では「街並みや雰囲気」（60%）が「治安がよいか」（57%）を上回る結果となりました。また、留学先を選ぶ基準別に希望留学先を聞いたところ、全ての項目において、カナダの割合が高い一方で、「街並みや雰囲気」を重視している回答者は、アメリカ（46%）を選ぶ割合が高く、また、「現地の人の人柄」を重視している回答者は、オーストラリア（50%）を選ぶ傾向があることが読み取れました。

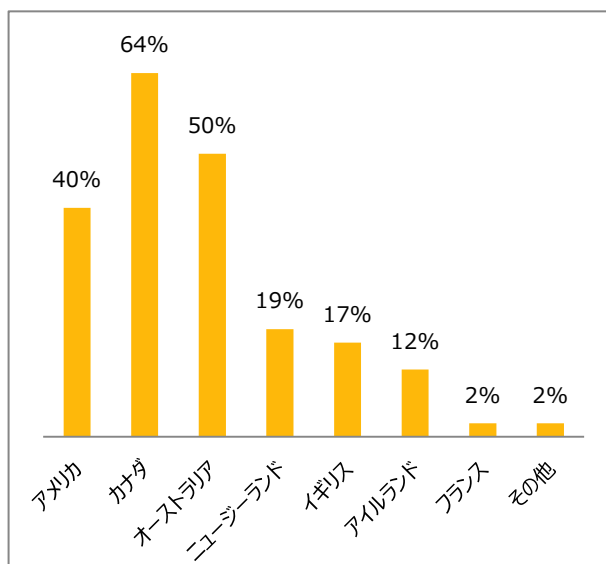
留学先を選ぶ基準 ※回答項目をあげた中から複数選択（上位3つまで）



「街並みや雰囲気」回答者の希望留学先



「現地の人の人柄」回答者の希望留学先

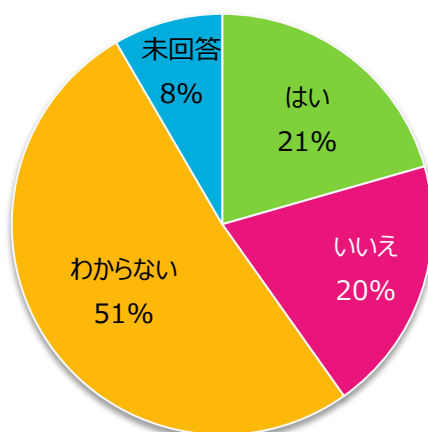


3. 長期留学と就職活動について

■長期留学を望まない理由に「まとまった時間が取れない」(67%)「短期留学で十分」(24%)が上位ランクイン

今回の留学後の長期留学への希望を尋ね、「望まない」と答えた学生は20%。また、その理由を聞くと「まとまった時間が取れない」と答えた割合が67%と最も高く、次いで「短期留学で十分」(24%)と続きました。学校の授業に加え、学年が上がるにつれインターンシップや就職活動など、取り組むべき活動が増える忙しい大学生の実情が伺える結果となりました。

今回の留学の後、長期留学をしたいと思いますか？



長期留学をしたいと思わない理由はなんですか？ ※回答項目をあげた中から複数選択（上位3つまで）

